

# 令和2年度山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和2年9月9日(水) 16:00~17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

## 4 知事挨拶

平素から本県の教育行政の推進に多大なご尽力をいただいていることに対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、本日は、今年度第1回総合教育会議に大変お忙しい中、お集りいただき感謝申し上げます。

県では、新たな時代の人づくりに向け、現在、推進方針の策定を進めている。皆様からは、ICTを活用した教育の充実やコミュニティ・スクールの深化など様々のご意見をいただいたところである。

その後、関係者からいただいたご意見等も踏まえ、人づくりの基礎を培う幼児期の教育、また、特別な支援を必要とする児童生徒等を含めて、意欲ある誰にもあまねくチャレンジの機会を提供すること、あるいは、私立学校との連携などの視点も新たに追加をさせていただいた。

さらに、現在は、日本国内、そして世界中で新型コロナウイルスによる様々な影響が拡大し、人々の意識、また行動にも大きな変化が生まれてきているところである。国においては、これを社会変革の契機と捉えて、社会全体のデジタル化を強力かつ一気に進めようとしており、こうした中では、子ども達の学びのスタイルにも大きな変化をもたらすことが予想される。

このため、本県では、新たな時代の教育に一早く対応できるよう、従来の計画を前倒しして、今年度中に県内全ての公立学校で一人一台端末を整備するなど、学校におけるICT環境の充実に向け精力的に取り組を進めている。今後はこの環境を生かして、個別最適化された学びの実践やオンラインを活用した活動など、新たな学びのスタイルを取り入れ、子ども達の可能性を伸ばす取り組みを進めていきたいと考えている。

私としては新型コロナウイルスの影響によるピンチをチャンスに変えて、子ども達の教育を、未来型へと転換をしていく。そうした取り組みを県教委と連携してしっかりと前に進めていきたいと考えているので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願ひしたい。

本日は「新たな時代の人づくり推進方針(素案)」を改めてお示しをさせていただく。併せて、「令和3年度重点取組方針(案)」についてもお諮りをする事としている。委員の皆様には、推進方針の内容や重点取組方針などについて忌憚のないご意見やご提言をいただき、本県教育行政のさらなる充実に繋げていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

5 議事概要（議事進行：知事） ※委員発言：● 事務局説明等：○

(1) 山口県新たな時代の人づくり推進方針（素案）について

(2) 令和2年度の重点的な取組に対する対応について

(3) 令和3年度重点取組方針について

○事務局から別添資料に沿って一括して説明。

●中田委員

若者の県内定着の促進に関してお話ししたいと思います。幼稚園、小学校、中学校、高校を経て社会人になって、できれば県内で充実した生活を送り、地元にも貢献して欲しいということだと思ふ。学校においては、先生方が非常に目を配っておられ、必ずしも100%上手くいっているわけではないだろうが、それでも、すべての人が学生のためを思って、いろんな施策をされておられますから、それほど心配するようなことはないと思っている。高校と大学の連携も十分にやられておられるし、それを進めていただければ良いのではないかと思ふ。

一つだけ気になる点とすれば、経済的に貧しい家庭が結構あるということで、このために十分な教育が施されないということがあると、よくいろいろなところで言われる。子どものための教育に時間やお金を費やさないというような親もおられる。今までだったら、優秀でないと基本的に奨学金というのをもらえないと思ふが、非常に経済的に困窮しているという理由で奨学金が与えられないかというようなことを考えていただければ良いのではないかと思ふ。経済的に苦しいために、良い教育の機会が提供されない。子ども自身にとっても、未来が描けないということでは非常にかわいそうだし、良い人材が社会に飛び立って、育ってくれないと困るわけですから、少しそういうところへお金を使っても良いのではないかという気がする。

もう一つ。山口県の会社というのはどうしても、東京、大阪にある会社の規模よりも小さいところが多い。そうすると学生が高校を卒業し、あるいは大学を卒業して就職した時に、自分が10年後20年後にどういう生活を送っているのかというような未来を描く時に、身近に目標となるような方がおられると非常に描きやすいと思ふ。

しかし、職場にそれほど人数がいなくて、そういう方がおられない場合もある。異業種交流というようなやり方で、いろいろやられているとは思ふが、是非それを、もっと積極的にやってほしいと思ふ。

私は、大学に勤めている若い頃、ある団体が異業種交流の仕事をやっており、いろいろな研修を行っていて、私が何回か受けた研修は、1ヶ月に1回、1年間で12回分の研修を行うものだった。例えば、私が出席した回に、戦略的に20年先を目指して、企業はいま何を考えているのかというような会合があった。その会合では、日本では、一番大きいA社と、中堅会社であるB社、それ

ぞれの戦略が全然違っていた。A社はいずれ自社の多角化しているところを整理して製薬の方へ一本化すると言われていた。B社は多角化で進んでいくと言われていた。世界的には、A社でも売上とか規模でいうと、だいたい14、15番目ぐらいである。つまり、そんなに大きい企業ではないので、外国の大きい企業が国内に入ってきたら、負けてしまうというわけである。A社は、それに立ち向かうためには、いろいろなことをやっていたのでは立ち向かえないので、医療のところへ集中化する。人材を、資金を集中化するということである。そういう会合が人事であったり、研究開発だったり、いろんな領域で、いろんな会社の人達が集まって行われていた。そういう会合などへ出席すると非常に刺激になる。

もう一つは、伊藤元重という大学教授が、今話題になっている、あるいは、成功している会社の人を呼んできて、朝9時ぐらいから夕方5時ぐらいまで、10人ぐらいの出席者で議論する。そういう機会を是非山口県でも設けて、若い方が、山口県でもいろんなことが、将来的に不安を持っているようなことでも、一生懸命努力している人が自分の周りにたくさんいるというような感覚を持っていけると、いいんじゃないかなと思う。卑近な例だが、私の大学では、「先生、私、山大経済学部に入ってきたけど、がっかりしました。頑張っ、いろいろな将来のことについて、努力している人が非常に少ないんです。こういう学生の中で勉強していると、だんだんやる気が失せてしまう。」と言う学生がたまにいる。こういう田舎だが、田舎でも周りにたくさん頑張っている人がいるということを若い人達に知って欲しいと思うので、そのための支援が必要だろうと思う。

### ●村岡知事

とても重要なご指摘だと思う。家庭の支援については、最近ここ数年で授業料を無償化するなど、奨学金制度も充実しているが、まだまだ行き渡っていないとか、足りない部分もあるのだろうと思うので、そこをよく分析をして、必要な措置をしていくことは必要なことだと思う。

後段で話のあった、特に若い人達、大学生、もっと言えば高校生とか、この地域に残ろうと、この地域で頑張ろうと思ってもらうためには、ロールモデルとか、身近な、もう少し近いところで、こうやって熱い思いを持って活躍している人がいるということを、直接、具体的な人の話を聞いて感じるというのはとても素晴らしい経験だと思う。この人づくりの中でもそういった議論もあって、そういった考え方を盛り込んでおり、そうした機会を高校とか大学とか、社会人になってもそういったものもあるでしょうけれども、いろんなところでつくっていくということが大切である。やはり、具体的に明確な目標を持って、あんな人になりたいっていうような形のものを作っていくと、その地域、あるいは、その会社に入って頑張るっていうことのモチベーションとしては大

きいものがあると思うので、どういったことができるのかということを考えていきたいと思う。今、いろいろと企業の方も大学とか高校とかとどんどん行ってもらって話をしてもらうことも増えているし、積極的になっている企業も多いので、まずそれをさらに伸ばしていくという方向を考えればと思う。

#### ●宮部委員

昨年につき、「新たな時代の人づくり推進方針（素案）」ということで、プラスされた幼保の問題、私学の問題とか、非常に良いことだろうと思う。特に感じるのは、幼稚園、保育園、なかなか若者の就職が定着しないとか、先生方が長く続かないということがあるのでしょう。ちょっと調べたところ、山口県は、結構、幼稚園の先生、保育士を育てる短大や大学がたくさんあって、その辺は良く充実していて良いと思うが、結局長く続かないというのは、やはり労働として、仕事に対しての報酬といったところでしょうか。我々は建設業なので、3Kということで人が集まらないという時代があったが、今では、国土を守るという認識の中で、少しずつ、国、地方自治体が考え方を考えていただいて、非常に環境が良くなっている。そういった環境の中で、やはり人が定着することなので、質も量も含めて、そういったことも最初から、深く頭に入れて、考えていかれたら良いのではないかなと感じている。子どもを、人を育てるのにそれこそ30年かかる。教える先生方も育てるのにずいぶん時間がかかるわけだが、それが簡単にやめて定着しないということが一番問題だろうと思う。それと、憧れの人を見て人が育つということの中で、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学も全て一緒だが、先程、異業種の中での話を中田委員が言われたように、異業種の中でそういった立派な方々に接するということもあるが、小学校で偉人の話を聞いたり、道徳の話があったり、もっと身近に、地区で頑張っている方とか、校区内とか、学校の卒業生とか、地域を絞って、それぞれの幼稚園から大学まで、それぞれで活躍されている方が必ずいると思うので、そういう方から直接話を聞くのも良いし、伝え聞いた話でも良いし、そういう方がこの地区におられたんだということを知れば、もっと身近に感じて、目指す目標というのを見つけやすくなるんじゃないかなと思っている。

それと、「令和3年度重点取組方針（案）」の中にもあるが、若者の地元定着という流れの中で知事もいろいろ企業誘致をしたり、本当に頑張っておられて感謝しているが、コロナ禍のこういった時代の中で、リモートで仕事ができるという業種がたくさんあるので、その辺を、それぞれの地方との競争になると思うが、しっかり頑張っていて、地元の若者を外に出さないような施策をお願いしたい。

#### ●村岡知事

幼稚園、保育園の先生方が不足している、辞められている方も多いというの

は、国の方でも待遇面を改善したりとか、我々も学ぶ時の奨学金制度を設けたりとか、いろいろやっているが、まだまだ改善をしていかなければいけないところが多くあると思う。

2点目の話についても、同じ校区内とか同じ地域の中で、いろいろな方々に実際に子ども達に話をさせていただいたり、コミュニティ・スクールの中でもやっているが、特に地域の方々が地域の子ども達に対して、自分が役に立つことができると、熱く思っている方もおられますから、そこを上手く繋げていければと思う。

それからリモートの環境についてもおっしゃるとおりで、元々、Society5.0と言われるもので、情報化を一段高く進めていかなければいけないという中で、新型コロナウイルスが発生し、リモート環境も整えなければいけないということもある。基本的に情報通信ができるようにするため、インフラの整備とか、そうした環境を整えていくことと、そうしたものを上手く含めて、事業活動ができるような環境を整えていくことを、我々も進めながら、また、その誘致をする上でのポイントというか、そこは強みになるようなことを、急いでやっていかなければいけないと思う。それについては、補正予算として、次の機会に出そうと発表したところで、その中でも新しいデジタル化に対応した地域の環境を作っていくということも方向として出しているの、これは、これからさらに、進めていって、そここのところで遅れをとらないようにしていくことが必要だろうと思っている。

#### ●佐野委員

まず、新型コロナウイルスに対応するために国のG I G Aスクール構想が前倒しされ、関係予算が用意され、これまでになく、教育について、I C T関係の施策が進められているように感じている。

現在の社会において、利活用が不可避の技術となっており、将来においてもさらに生活に密接な技術になると感じている。是非、こういったものが無駄にならないよう学校において活用され、継続的な取り組みとして定着させていただけだと感じている。

まず、重点取組事項の新たな時代に向けた人づくりの推進について、義務教育までの幼児期の子ども達とその後の生育に影響するということで、非認知能力が注目されると示されていると感じている。この非認知能力について、参考にさせていただいた中室牧子大学教授の「学力」の経済学」という本を読ませていただいた。その中で子ども達への教育的なプログラムの追跡調査がたくさん例示されていて、大変参考になった。これらの内容は私達がなんとなく感覚的に感じてきたしつけとか、良い習慣、そういったものを裏付けているものではないかなと感じている。

また、現在山口県において、家庭での子どもを育てるノウハウが、一昔前よ

り失われているのではないかという話を聞いている。もし、山口県で活用されていかれるようであれば、私達の社会でも効果的であるかを検証しつつ、子ども達の強みを生かすものになるような独自の検証を行って、修正をしながら運用されていく、長期的な視野のものを行っていかれたらいいのではないかなと感じている。感覚的には多くの皆さんが受け入れられる内容だと思っているが、やはり多分効果的だろうというところから、効果的なものだと確信できるような、山口県としてのノウハウやビジネスの蓄積が必要に感じている。そのためには、指針にたくさん示されているような教育情報の有効利用、有効活用のための現場教育機関と大学などの研究機関との連携、成果を活用できるような小学校との連携、幼児教育に関わる先生方の資質能力の向上に役に立つような環境づくりを進めていただければなと感じている。

それと、ICTについて、この先、子ども達は、授業において、日常的にICTを利用するようになってきている。それに不可欠な要素としての通信環境の整備については、しっかり対応していただければなと感じている。また、ICT技術を利用したものは決してメリットばかりではないと感じているので、そこはICTにこだわらず、従来の手法も組み合わせたハイブリッドな手法を利用していただきたいと感じている。携わる人達が想像力を働かせて、これまで届かなかった世界を開けるための道具としてICTをしっかり活用ができるようにしていただきたいと感じている。技術が進んでも、人が人を育てるという要素が不可欠であり、このことには変化がないものだと感じている。AIであってもICTであっても中身であるアルゴリズムやプログラム、システムを構築して利用できるようにするのは人であるし、そういったものが進めば進むほど、間違いとかバグとかの修正、そういったシステムを継続的に使いこなす人の能力も必要になってくると感じている。若い先生や教員の方達の柔軟な考えとか、従来の枠組みを超えるような想像力や感覚を生かして良いシステムを構築していただければと思う。

最後に、現在、これまでに経験したことがないとか、過去50年に1回という言葉がよく聞かれる。様々なことが変化して社会が変容しているパラダイムシフト的な時期なのかなと感じている。長期的でありながら変化に対応させないといけないという難しい状況を感じているが、長期的な志の下、大胆に取り組みながらもしっかり検証見直しを行っていただき、社会的な変化を未来形として乗り越えていただけるような舵取りを期待している。

#### ●村岡知事

教育の効果も図りながらPDCAをしっかりと回しながらやっていかなければいけないというのはおっしゃるとおりだと思います。エビデンスをとって、それに基づいて改善等も図っていきながら成果を上げなければいけないだろうと思う。

それから、ICT環境の整備は、今年度一気に一人一台端末の整備をし、通

信環境を整えてやっていこうということで取り組みを進めている。海外と比べて日本は相当遅れているということ、今回のコロナ禍の中で改めて感じたところであり、その中でも、山口県は遅れている方ではあったが、これは一気に前に進めて、全国でもトップクラスの環境を整えていきたいと思っている。その上で、ICT環境を使った方がより子ども達を教育する上で効率的とか効果的な部分、技術で解決できる部分はどんどん使っていくべきだと思うし、一方で、それだけではなく、対面でやらなければいけないことを人と人とで初めてできることというものがあると思うので、そこには、それを上手く組み合わせていくということが大切であると、委員はおっしゃっているのだろうと思う。そういった意味では、先生方も、これから技術を使う部分と自分の人としての部分との両方を最適な形でやっていかなければならないことで、いろいろと変更していかなければいけない部分もあると思うが、そうしたことも同時にスタートしていったら、ICTのメリットを最大限使いながら、よりそれによって効率化を図れた部分はまた別のところで、教育の先生方の力を発揮してもらおうということが大切なのかなと思う。そうした、どういった教育をするかということも教育委員会の方でまた研究していただくことになっているので、是非これを導入して、全体的にはレベルをぐっと上げて、成果に結びつけていきたいと思っている。

#### ●小崎委員

「新たな時代の人づくり推進方針（素案）」については、現在、新型コロナウイルスの発生という思いもよらないことが起こっていて、策定の趣旨にあるように、まさに予測困難な未来を切り開いていかなければいけないという状況になっていると思う。それも踏まえて、私は、今回の趣旨のところを読ませていただき、言葉一つ一つに力強さを感じた。本当に、この思いでやっていただきたいと、とても感じた。

また、私はこの資料の1-2（「山口県新たな時代の人づくり推進方針(素案)」）を読ませていただいたところ、その趣旨の最後の部分に、「市町はもとより、学校や地域」とあるが、この地域というのは、前回の素案の中には入っていなかったものなので、地域という言葉を入れていただいたことは、地域に関わる人間として、本当に嬉しいと率直に思っている。

続いて、今回新たに盛り込まれている、幼児教育・保育の充実については、是非、力を入れてやっていただきたいと思う。この資料1-2の7頁に記載されている内容を読み進めていくのと同時に、本当にそのとおりという感じで思わせていただいた。乳幼児期にこういった、体を使って遊ぶこととか、いろいろなことを体験する。また、そのことによって知識や感性を育むということ、また、自分が愛されているとか、大切にされているというふうなことを実感しながら成長していくことは、この「人づくり推進方針（素案）」にも示されてい

るように、新たな時代を担う人材像の土台をつくることに繋がると思う。

幼児期に培ったいろいろな力を、途切れることなく小学校や中学校へと繋げていけるように、教育機関はもちろんだが、学校運営協議会や地域協育ネットとも連携をして取り組んでいただきたいと思う。

希望を言わせていただくと、状況が許せば、私達教育委員による幼稚園や保育園の視察を行ってみたいという思いがある。

これは前回も発言したが、素晴らしいこの推進方針が幼稚園、保育園を含めたすべての先生方、保護者や地域の皆さんの目に入るようにしていただきたい。さらに言わせていただくと、これを見てください、読んでくださいというのではなく、実際に、学校の方、地域の方に出向いて推進方針の趣旨や取り組みなどをしっかり伝えていただきたい。是非お願いします。

この「令和3年度重点取組方針(案)」については、基本方向の(2)に、「ふるさと山口への誇りと愛着を高め、地域や社会の課題を発見、解決しながら」とあり、まさにコロナ禍の中で、小学校や中学校の修学旅行ができないとか、県外には行きづらいということで、山口県の中を回る。例えば、萩の中学校は、修学旅行は市内ということだが、そういうことが、今年度に関しては、小学校や中学校ではあるみたいだが、これは逆に、山口県のことを深く知る機会を子ども達はもらったのではないかなと思う。やはり、いろいろな授業で故郷のことを学ぶ機会があると思うが、1日もしくは2日かけてじっくり自分の故郷を知る機会は、なかなかないので、先程、知事が言われたように、ピンチをチャンスに変えるときだなとすごく思っている。

#### ●村岡知事

今回、幼稚園、保育園を加えたところである。教育は、そこからスタートして繋がっていくものなので、その重要性をしっかりと認識をして、繋がっていくような教育をしていかなければいけないだろうと思うし、その上で地域の皆様の力がこれからも必要なので、これに関して、地域の方のお力もお借りしながら、取り組みを進めて行ければと思う。

それから、修学旅行については、県民の皆様が山口県のことを知らなかったりすることもあるので、大人もそうだが、子どものときから学ぶことは重要であるから、これも一つの良い機会だと思って、この機会に県内の素晴らしさを知ってもらい、いろいろなことを学んでもらいたいと思っているので、教育委員会と連携して取り組みができればと思う。

#### ● 穎原委員

新たな時代の人づくりの推進の取組について、資料3(「令和2年度の重点的な取組に対する対応」)に具体的な対応が説明されており、とてもわかりやすく良いと思ったので、今後も進捗について、具体的に教えていただければとい



うふうに思う。取り組みが多岐にわたり、すべて実施するとなると相当の労力がかかると思うので、進めていく中で優先順位をつけて重点的に取り組むといったようなことも出てくるのではないかと思う。

取り組みの中で、上手く進むものもあれば、もしかすると、見直しが必要になるというものもでてくるのではないかと思う。その辺りも含め、進捗について、今後教えていただければというふうに思う。

取り組みについて、県民の皆様への情報発信を積極的にお願いしたい。その際、活字だけではなく、映像なども活用してほしい。例えば、スマートフォンやQRコードなど、様々なツールがあるので、県民の皆様が届きやすくなるように、情報発信を行っていただければというふうに思う。

山口県内での学生の就職については、就職の前後を通じて、一人一人の個性に応じたきめ細かなカウンセリングという取り組みはとても良いことだと思うので、積極的に学生と関わりを持っていただき、今後の実施状況について、教えていただければと思う。

今後も取り組みが効果的に実施され、山口県の活性化に繋がるということを期待している。

#### ●村岡知事

基本的な人づくり推進方針（素案）ということで、これから個別の施策として、具体的な取り組みを進めていくということになる。これに基づいてどういったことをやっているとか、またそれを進めながら出てきたこととか、分かったことについては、改善をしながら、していかなければいけないだろうと思うので、我々としてもそういったことをやっていきたいと思う。

また、皆様にもそれをお示しして、いろいろとご議論をいただきながら、ブラッシュアップできたらなというふうに思っている。

それから、情報発信については、いろいろなツールがあるので、それを有効に活用しながら、しっかりと県民の皆様には伝わるような取り組み、これは全般についてそうしなければいけないと思っているが、しっかりと取り組んでやっていきたいというふうに思っている。

#### ●浅原教育長

初めに、大変厳しい財政事情の中で、本県教育の充実に向けて必要な予算をいろいろと確保していただき、感謝申し上げます。特に、新型コロナウイルスへの対応に関する補正予算については、学校の感染症対策に係る経費であるとか、学力向上支援員の追加配置であるとか、そして、一人一台端末の前倒しの導入と、こういった予算を本当にしっかりと確保していただいた。

それから、本日説明があった「人づくり推進方針（素案）」については、先程から何度も話がでていますが、幼児教育、あるいは特別な支援を必要とする児童

生徒に関する内容など、幅広いテーマが盛り込まれており、関係機関が連携して人づくりを進めていく上で、大変有意義なものと考えている。県教委としては、「人づくり推進方針」が出来上がったら、それを踏まえて、本日も提案のあった「重点取組方針」の重点取組事項となっている、新たな時代の人づくりに向けた施策などに積極的に取り組んできたいと考えている。

そうした中で、先程から重なるが、教育におけるICTの推進について少し話をさせていただきたいと思う。県教委としては、本県の将来を担う子ども達のためにICTを基盤とした先端技術を効果的に活用し、自ら課題を発見し、他者と協働して新たな価値を創造する力、こういったものを育むことが重要であると考えており、そのために、6月に県教委内に学校の情報化を総合的計画的に推進する「教育情報化推進室」を設置して体制を整えたところである。本年度は県立学校の校内ネットワークの高速化、無線LAN、大型提示装置、こういったものを整備するとともに、話があったように、すべての児童生徒に対する一人一台端末、この導入を今、急ピッチで進めているところである。それから、「やまぐち総合教育支援センター」内に新たに設置をした「やまぐち教育先導研究室」においても、ICTを積極的に活用し、PBLとか、STEAM教育といった新たな学びの視点を取り入れた学習プログラムの開発に着手するとともに、このICTを効果的に活用できるように、教員の資質向上というか、スキルアップというか、そういったものに取り組んでいるところである。県教委としては、通常の授業において、個別最適化された学習、それから再び学校の臨時休業が必要になった、ならない方が良いが、そういった際のオンライン学習など、様々な場合において、子ども達がICTを活用し、より効果的な学習を行うことができる環境の実現に向けた、その整備に、引き続き全力で取り組んでいきたいと考えている。令和3年度は、このICTを活用した学びが実際に学校現場で動き出す、実践されていくという年になる。本年度整備をする素晴らしいこの環境をフルに活用して、一人一人に合った個別最適な学びができる教育の実現と、子ども同士の切磋琢磨、あるいは学び合いの機会の充実を図って未来を拓く、たくましい山口っ子の育成、さらには山口県で活躍する人材育成に取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

#### ●村岡知事

ICTの環境整備に予算をつけているが、実際にこれを実装する上で、より良い形にしてもらわなければならないので、そういった意味で、教育庁の中に「教育情報化推進室」を設けられたことや、学習プログラムの開発とか、教員のスキルアップの取り組みを始めてもらっていることを本当に心強く思っている。この環境整備によって、より良い教育ができるようにしていただきたいので、引き続き、我々もいろいろとサポートをさせてもらいながら、取り組みが前に進めばと思っているので、よろしくお願ひしたい。

それでは、「新たな時代の人づくり推進方針（素案）」、「令和3年度重点取組方針」について、本案のとおり進めていくこととして、よろしいか。

（委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり）

それでは、いただいたご意見を十分に生かしながら、今後の事業の推進、施策の構築等をしっかりと進めていきたいと思う。

#### (4) その他

##### ●村岡知事

本日は、貴重なご意見いただき、感謝申し上げます。

皆様方のご協力により、「新たな時代の人づくり推進方針」の方向性、また、「令和3年度重点取組方針」を決定することができた。

来年度の具体的な取り組み等については、新型コロナウイルスへの対応も踏まえながら、今後取りまとめる「令和3年度当初予算編成方針」の下で検討を進めていくこととなるが、これまでに策定している、維新プランや教育大綱、さらには今年度中に策定予定の「人づくり推進方針」に沿い、本県教育の一層の充実に取り組んでいきたいと考えている。

皆様においても、教育委員としてのお立場から、引き続きご協力を賜りますよう、お願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただきます。

#### 6 閉会（事務局）

（以 上）